

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第 14 号 [2009 年 11 月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第 14 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃ってきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

<目次> [ページ]

メソト・マンスリー 今月のメソトの様子をお知らせします。 (田辺 文)

- [眼科医チームがやってきた！](#) [2]
- [きょうのゆめ](#) [2]
- [学校の尊さ](#) [3]

国内から (加藤 好美)

- [子供の未来を支える学校保健](#) [5]
- [学校保健 支援報告](#) [6]

編集後記 [8]

次号の予定 [9]

会員更新のお知らせ [9]



メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

【メソト（タイ北西部）＝田辺文】



眼科医チームがやってきた！

イギリスより Karen Aid Foundation という眼科医のボランティアグループがメータオ・クリニックを訪れました。同団体とメータオ・クリニックの関わりは長く、年に2～3回メータオ・クリニックを訪れては100～200件の手術をしています。

対応疾患はほとんどが白内障の人工水晶体交換術。これは日本を始めとする多くの国では広く行われ安定した成果をあげています。しかし、インプラントおよび医療処置が高価なビルマ国内では、手術を受けられる患者さんは限られています。

クリニックは眼科医チームの到着2週間前から、手術を待つ患者さんとその家族で溢れ返り、外来待合所などすべての屋根のある

スペースはテントや蚊帳で埋まりました。国境周辺はもちろんですが、首都ヤンゴン、さらに西ビルマから遙々訪れた患者さんもあり、長い方は1週間ほどの時間をかけクリニックを目指したこと。多くが高齢者であり、その苦労が伺えます。

今回は2人の術者により200数件の手術が行われました。しかし、100名以上が今回の日程中に手術を受けることができず次回へ持ち越しになりました。

長い時間をかけ国境を越え、待ちに待った手術を受け、2日間の眼帯を外した白内障患者。明るく開けた世界に喜びの声があがりました。



(写真左：手術の様子)



写真右：診察を待つ人々)

きょうのゆめ

今月は、ノー・スー・ピン・ゾー・ワイちゃん 5歳 です。

お母さんは12歳の時、お父さんは22歳の時タイに移住、メソトで出会い結婚しました。教師をしていたお父さんは英語もタイ語も堪能で、メータオ・クリニックですべてのコーディネーターとして重宝されています。



教育熱心なお父さんの方針で移民学校でなく、タイの学校へ通うことになりました。
ちゃんと卒業資格を得られるからだそうです。



お友達はみんな移民学校へ通っているのでちょっと寂しい。
でも、タイ語をだんだん話せるようになってきました。
大きくなったらお医者さんになりたいです。
理由は、患者さんを治せるからです。
お父さんは、いつか家族みんなでビルマに帰りたいと言います。
どんなところかな？

(写真：今まで跳ね回っていたのに
カメラを向けると急に大人の顔とポーズ！)

学校の尊さ ~Borderless Border's より~

JAM は国境地域の移民学校の保健支援もしています。
学校保健改善が優秀だった 3 つの学校に対して
学校側が求める賞品を提供しました。

机、水タンク、校舎を塗るペンキ・・・。
色々なものに使ってくれましたが
やはり学校側が自分たちで何が必要か考えててくれたのが
良かったと思います。

広い広い農園の中にある学校
そして牛市場の奥にある学校
どれも隠されたように奥まっています。

3 つの学校とも小屋のような教室に
100 人近くの生徒がぎっしり。

さらに改善すべきことは？

いますぐ投入できる資金はないのですが
参考のためにこの質問もしてきました。
学校が求めるものには段階があるように思います。

安全な飲み水
適切なトイレや手洗いの水
(寄宿舎がある学校では) 給食
みんなが入れるのに十分な広さを持った教室
机と椅子、黒板
必要な先生の確保 (給料も含めて)

すべてが小学校だったため
私がどうしても気になってしまるのは、卒業した後どうなるか



(写真：この 2 つの教室に
80 人以上が勉強しています。)



正直この問題は、リストではずいぶん下のほうです。

しかし私の質問に答えてくれた先生の驚くべき返答は

「勉強を続けたい人は難民キャンプに行く・・・」

でした。

実際お話を伺った先生の1人は、難民キャンプ出身。

キャンプに比してキャンプ外の移民学校の
就学機会の低さを嘆いでいるようでした。

難民キャンプの中と外。

ビルマ国内とタイ。

その流動性や誤った難民キャンプの受け止め方を考える以上に
子どもに教育を受けさせたい情熱に心打たれてしまいました。

★★日々、更新中！★★ぜひ、ご覧ください。

Borderless Border's（田辺文のブログ）<http://www.japanmaetao.org/blog/borderless/>

メータオ・クリニック支援の会ホームページにアクセス ⇒

活動・レポート・PR方法 ⇒ 「現地からのレポート」Borderless Border's

国内から



子どもの未来を支える学校保健

【東京=加藤好美】

1. 自己紹介

私は、青年海外協力隊で西アフリカにあるニジェールという国で、看護師として学校保健活動を行ってきました。ニジェールの小学校ではフランス語を習うのが中心であり、手洗い・うがいなどの基本的な病気予防方法を学ぶ機会がほとんどありませんでした。そこで、子ども達が基本的な病気予防方法が身につけられるように、現地の先生と共に、保健衛生教育に携わってきました。

ニジェールから帰ってきて、今はJAMの学校保健活動に参加をさせてもらっています。

2. 貧困とは何か？

貧困と何かというと、単にお金がないことだけではありません。教育や医療など、人として当然社会から得られなければならないサービスを得ることができない状態も入ります。



さらに、自分の選択肢（高等教育、就職など）を考えた時に、そのチャンス（機会、可能性）すらない状態をいいます。

3. 小学校に通っている世界の子どもの割合は？

ユニセフ世界子供白書 2009 のデータによると、初等教育純就学率は、日本＝男女 100%、タイ＝男 90%・女 86%、ニジェール＝男 46%・女 33% です。
世界で初等教育を受けられるか、受けられないか、格差が生じています。

4. 学校保健の大切さ

開発途上国の子どもの死亡原因は、主に下痢・風邪・マラリアなどです。これらの病気は、予防可能なものです。

小学校で基本的な保健衛生教育を行い、子どもが病気予防方法を身につけることができたら、子ども自身が病気から身を守ることができるようになります！

すべての子どもが小学校に通い、保健衛生教育を受け、健康に健やかに成長できるようになりますように・・・。

JAM では、保健衛生教育・ビタミン A 投与・身体測定などの学校保健活動を行っています。みなさんのご支援により、小学校に新しく水飲み場を作ったり、トイレを作ったりしています。

今後とも、みなさんの力を借りしながら学校保健活動に取り組んでいきたいと思います。引き続き、ご支援をよろしくお願い申しあげます。

学校保健 支援報告

JAM が支援に携わった学校の報告です。



Talar Aor Klar 学校

2003 年設立 生徒数 102 名 指導学年 1~4 学年

支援金の使途（1 パーツ ≈ 2.78 円で換算、小数点以下四捨五入）

品目	単価	個数	金額
トイレ建築用木材			
4X2 フィート	305 円	6	1830 円
3X2 フィート	250 円	10	2500 円
5X1 フィート	111 円	10	1110 円
黒板	2224 円	2	4448 円
飲用水用バケツ	945 円	1	945 円
トイレ用バケツ	751 円	1	751 円
椅子	445 円	1	445 円
長机	1223 円	10	12230 円
計			24259 円

